

折々の記 No266：御代替り所感！

(令和元年5月1日記)

平成31年4月30日今上天皇が退位され、翌5月1日0時をもって皇太子徳仁親王が踐祚（せんそ）即位された。

生前御退位・譲位及び踐祚・即位に伴う式典も古式床しく、厳粛且つ整齊と執り行われ、国民も天皇皇后陛下に対する感謝と新天皇即位の慶祝に溢れている。一連の式典や報道を見ての所感を述べたい。

1 儀式（ ）は皇室行事

- ・退位礼（4月30日）
（退位礼当日賢所大前の儀）
（退位礼当日皇霊殿奉告の儀）
退位礼正殿の儀
- ・即位礼（5月1日）
剣璽等承継の儀
即位礼朝見の儀

2 日本の国体を内外に鮮明

万世一系の天皇を戴く万邦無比の日本の国体を内外に示した。
神話と歴史的事実が融合して連綿と続く歴史
君臣相和し、一体感

3 上皇は、象徴天皇のあるべき姿を追求し、それを見事に体現された。将来的な範となるだろう。

天皇の役割は、確かに宮中祭祀の執行のみではなく、国民と寄り添い、その悩み苦しみを我が物とすることであり、それでこそ君臣一体の極致だ。このことこそが天皇の本来の姿であるとの認識。新天皇も承継して頂きたいものだ。長い皇太子時代を経て色々な思いもお持ちだろうし、帝王学も学ばれたものと思う。徳ある天皇の存在こそが万世一系の根本だ。

4 日本の知恵：権力と権威の分離（権権二分）

歴史を見ると紆余曲折があったものの、権権二分なくしては我が国の皇室制度は永続しなかったのではないだろうか？日本にとって、天皇という存在は不可欠なもの。

5 安定的皇室制度の存続に知恵を

皇位継承者の減少は皇室制度の存続にかかわる。皇嗣子悠仁親王おわしますに関わらずタブーなき議論こそ望まれる。

6 日本の天皇・皇室や国民の関わり等について諸外国も好意的に報道している。

天皇家は、諸外国とは異なり征服王朝ではなく、万系一世であり、国民との心的距離感も近い。皇室外交は数多の外交官に優る。

7 今般の一連の生前退位から即位と式典は、国民に広く受け入れられ、退位される天皇陛下に対する感謝の表明と新天皇即位への慶祝が溢れており、政治的にも特段の問題も

なく良かったのではないか？古来の伝統と時代にあわせた進取が混然となっていた。

- 8 国民の総意に基づくとされる天皇の地位であるが、広く国民に受け入れられており、盤石と思われる。

参考

代官わりに伴う後の主な儀式(太字は国事行為)	
5月1日	◆ 剣璽等承継の儀 ◆ 即位後朝見の儀 ◆ 賢所の儀(~3日)
5月4日	◆ 即位一般参賀
5月8日	◆ 賢所、皇霊殿神殿に期日奉告の儀 …天皇陛下が即位の礼、大嘗祭の期日を賢所、皇霊殿、神殿に報告する儀式
5月13日	◆ 斎田点定の儀…大嘗祭で供える新穀の産地(都道府県)を決める儀式
秋	◆ 斎田抜穂の儀…斎田で新穀を収穫するための儀式
10月22日	◆ 即位礼正殿の儀 ◆ 祝賀御列の儀
10月22、25、29、31日	◆ 饗宴の儀
10月23日	◆ 内閣総理大臣夫妻主催晩餐会 <small>ばんさん</small>
11月14、15日	◆ 大嘗宮の儀
11月16、18日	◆ 大饗の儀
別途決定	◆ 即位礼及び大嘗祭後神宮に親謁の儀
2020年4月19日	◆ 立皇嗣宣明の儀 ◆ 朝見の儀